

## 平成25年度第2回人生二毛作推進県民会議の概要

※網掛け箇所は付箋による意見、網掛けが無い箇所は口頭による補足説明

### ① 高齢者の就業をさらに進めるためには何が必要か？(誰が、何をする)

#### 仕事を作る

- 企業、国民は高齢者に仕事を発注する(働きたくても、仕事がなければ働けない)
- 金銭的な支援が必要(高齢者は仕事の能率が悪いいため、高齢者を雇用する企業の経済的な負担が大きい)
- 景気をよくする→求人数を増やす(景気がよくなれば全体の求人が増え、より多くの就業につながる)
- シルバー人材センターの存在を周知徹底し、就業したい人を増やす(仕事の間を求める高齢者の増加に 대응するため)
- 企業が求人を出す(ワークシェアリング:仕事の一部を高齢者に分けて、雇用を生み出す)
- 直売所をつくる(高齢者自らが直売所をつくり、自ら育てた農作物を販売する仕組みにより、仕事を増やす)
- 働く人が、企業に雇われる能力を高める

#### 制度を変える

- 定年制をなくす(個人の健康状態に合わせた定年)〈ポイント〉年金開始をいつにするか、若い人の仕事とのバランス(病気や介護の状況により必要な支援を行うとともに、健康で働ける人には年金支給開始時期を延長して、働いてもらう)
- 企業は雇用延長(年齢)をする
- 経営者が定年退職者の再雇用を推進する(経営者の高齢者雇用に関する理解の促進)
- 定年をなくす(働けるまで働く)
- 企業・団体等が、法制度に関わらず定年年齢の引き上げを図る(高齢者の活用による生産年齢人口減少への対応)
- 雇用主(会社)における高齢者の受け入れ体制の整備(定年制の廃止など)
- 短時間勤務ワークシェア(就業時間や業務内容によっては、就業が可能な高齢者が増える)

## 本人や家族の意識

- 在職中から計画するよう促す(企業に採用(再就職)されうる能力を高めること及び在職中の経験を活かした創業に向けた人脈の構築)
- 国民は生涯現役を目指し働く元気を持つ(働ける間は働く気力を保持する)
- 家族の理解・協力(就業をしたい本人の意思を理解し協力する)
- どんな仕事につきたいのか自分の目標(プラン)を人前で発表(自分の目標を他人に伝えることにより、目標をより強く自覚できる)

## コーディネート・マッチング

- どこへ行けばどんな相談ができるか、パンフ作成等により広く周知
- 多様のニーズに応えるため、入口としての「総合相談窓口」を身近な所に設置すること(多様な相談に応えられる総合的な相談窓口の設置及びその旨の周知)
- 地域の方、情報の提供をする。場所の提供をする。(気軽に相談でき、希望に応じた情報を提供する場所の設置)
- 企業が高齢者に合った仕事を探し出す(高齢者の体力などの適性に合った仕事の創出)
- 子ども教育支援(基礎学力)(高齢者が子供たちに対する基礎学力をつけるための教育の実践による就業・社会貢献)
- シニア専門相談支援(きめ細やかな高齢者向けに対応できる専門家の各地への配置)
- 高齢者向けの働き場所に関する情報がまとめられている(必ずしも動機が明確でなくとも気軽に相談でき、情報提供が受けられる場所の設置)
- 農業経営(JA、行政)が空き農地のあっせんや作物栽培指導(遊休農地等のあっせん窓口をJAに設けている)
- 農作業支援希望者とのマッチング(JAが農業に関する相談に応じているが、収穫作業だけの希望であればシルバー人材センターの活用など、他の機関の情報も含めて提供できる場の設置)
- 際を極める(各団体の分担業務の周辺を掘り起こす)(各団体にミスマッチ等で「際」にいる方を他の団体につなげられる仕組みの構築)
- 高齢者限定の人材バンクを作る(特別な技術だけでなく趣味におけるスキルも含めた人材の情報を登録する)
- 企業が求める人材と高齢者の就業希望のマッチングをはかるコーディネーター(働き続けた経験・知識を最大限に活用できる就業先や方法に関する相談に応じる人)
- 企業が地域の学校に出向き、技術・技能の伝授を行う(学生対象に)(熟練した技術・経験を活かして高齢者が学生に地域の技術・技能を知ってもらい、地域の良さの再発見とともに、技能の伝承につなげていく)
- シルバー人材センターへの支援(会員は子や孫のために熱心に就業している)

### 健康づくり

- 高齢者(本人)も常に健康の保持増進に努める
- 高齢者(本人)も常に自己研さんに努めるなどスキルアップを図り雇われる能力を磨く(65歳までの継続雇用制度等の導入などの環境面の整備といった他動的なものだけでなく、健康に気をつける、スキルアップなどの自動的(自発的)な取り組みが必要
- 健康なうちは働きたい、社会の為にも、そして自分自身のためにも…元気な高齢者が働ける場の支援を(本人の健康の増進に努める)

### 情報提供

- 就業に関する情報提供 ハローワーク 行政が(ハローワークやそれ以外の行政など様々な機関が提供している情報を自ら収集する)

### 長野県らしさ

- 長野県らしさ(農業やきれいな空気など)が出せればいい
- 地域の高齢者や農家が、修学旅行・観光客等に、農業体験だけでなく森林体験など自然を活かした体験をしてもらう
- ボランティアガイド(ある程度収入を得られる形で行うもので、旅行商品やツアーの中に、ガイドが、自らが蓄えた知識・経験や文化に関する説明を組み込んでいく)
- 林業整備(高齢者も知識を習得し安全に注意をすれば、森林の整備に携わることができる)
- 農業に意欲ある人が多い
- 70歳まで働ける企業数は全国上位
- 高齢化率の高さ⇒高齢者による高齢者の介護
- 元気な方が行う介護補助にポイントを付すなどにより、そのような方が介護が必要な状態になったときに、何らかのメリットがある制度

## ★上記意見(就業)における最も共感した事柄、意見等

### 制度を変える

- 定年をなくす。
- 元気なうちは働けるだけ働く。

### コーディネート、マッチング

- 仕事をしたいという人をいかに仕事に結びつけるかという所で、コーディネートやマッチングは大事である。
- 就業という所で、個々の能力を引き出し、希望することにつなげ、第2の人生を送っていただける様にしっかりと機能しなければいけない。
- 就業だけではなくて全ての所のコーディネートで言えるが、まずはコーディネートで今あるものをつなげ、活用するということが第一である。

### 本人や家族の意識

- 広く県民に働ける間は元気で働くということ知らせて理解してほしい。「あんなに高齢なのに働かなくてもいいのに」という風評から仕事を辞めたひともいる。

## ② 高齢者の創業をさらに進めるためには何が必要か？（誰が、何をする）

### 相談できる

- 相談 雑談するための窓口（機会）を設ける（創業や就業のためには、相談や雑談を通じた仲間やネットワークづくりが重要）
- 高齢者の専門経験を活かした相談機関の設置（スキルや経験を有する高齢者専門の相談機関・窓口の設置）
- 相談窓口の明確化
- 自分のサークルではこの活動をほとんどしていないので、公的な所へ紹介する（相談を受けた団体がその内容を他団体への紹介により、当該団体を支援）
- 創業するノウハウを教えてくれる場所、機会がある（具体的に個々の相談に応じながら「こういうことをやってみよう」と提案し、相談者を創業に導く）
- 起業を考える人の集まる「場」を創る（起業を考える人同士の情報交換による相互の協力や共同での起業につなげる。）
- 同年代の者がコラボできる仕組みづくり 県行政が同一種類の先輩創業者を紹介できる仕組みを作る（先輩創業者や同年代の高齢者の創業者から情報収集やこれらの者への相談ができる仕組み）

## 環境整備(研修等)

- 行政は創業しやすい研修等環境を整備する(空き店舗や研修など場所や人材育成に関する情報提供、研修の開催)
- 高齢者創業の研修制度の開設、講師は親しみやすくするため高齢者の方がいい(講師が若い人だと気後れしがち。受講者と同じ高齢者であれば、より親しみを感じ気軽に受講できる)
- 創業時に必要となるノウハウを提供する勉強会や講習会の開催(実際に操業するためには知識やノウハウが必要)
- 創業のための勉強会を開催(仲間を自分達で)(同じ考えを持つ人々が参集し、自ら勉強会を開催することにより、目的意識をより明確化させる)
- 他県、他地域、他団体等の創業・起業の成功事例の収集、データベース化、情報発信(事例紹介)(全くゼロからの創業は難しいため、他県などでの事例等の情報発信の仕組みを作り、情報を参考に、長野県・地域らしさをプラスして創業につなげる)
- 商店街や業界団体、地域・住民との交流の場づくり(交流により、社会のニーズ(地域の課題)の把握と高齢者の生きがいを創業につなげる)
- 準備の為にセミナーを開催する(生涯現役でいるために)(50歳代前後の者を対象とした年金制度や各種資格取得のためのセミナーの開催・受講により、50代のうちに退職後のイメージを持たせる)
- 創業のための情報提供、行政機関等と連携・協力
- 高齢者の集うコワーキングスペース(情報交換や協力関係の構築のため)

## 資金支援

- 地域課題解決を目標とするグループへの支援のしくみ(「元気づくり支援金」のような創業一歩目の資金支援)
- 社協中心に資金を援助してほしい(創業時には資金が必要)
- 創業を支援する環境整備(低利融資・優遇税制等)(高齢時からの創業のリスク低減のため)
- 創業時からの優遇税制導入
- 高齢者創業を支援するための助成金制度の創設(女性や若者を対象とした制度はあるが、高齢者を対象としたものは少ない)
- 高齢者のインターンシップ(疑似体験)(体験を通じ、様々なアイデアが出るケースや、相談できる機会・場所ができる)

## 個々の力

- 自身が創業の支援制度を勉強し、活用できるスキルを身に付ける(創業は失敗も含めて自己責任であるため、十分なスキルが必要)
- 現役時の知識・経験を活かす(退職時等での創業を意識しながら働く)
- 在職中から準備を促す(在職中から創業に関する相談をする)
- 個人が勇気と金を出す(勇気のある人にはお金の支援。お金のある人には勇気の支援)
- 家族の理解

## 仕組・方法

- 高齢者の創業に対するモチベーションを高めるために「高齢者起業大賞」の創設(発表の場やプレゼンテーション、アワードの設置)(全国に先駆けてお年寄り大賞の「起業版」を創設し、高齢者のモチベーションアップ、元気を出す)
- 二次、三次産業 農産物の加工、販売(地域の特産品等)(後継者不足を高齢者が埋める。高齢者が、自らが関わってきた人々からの協力や観光分野と連携しながら、特産物の開発、販売を一貫して行い、道の駅などでの販売を行う。また、このような取り組みに、高齢者に加え、認知症、障害者、学校に行けない子供も参画する。)
- 未だ開拓されていないニッチな市場への参入(落ち葉の商品化)(自分の身のまわりにある自然を生かした創業)
- 多様な世代や多様な人々が共に創業を考えると、より良い創業につながる(例:若者の知恵と高齢者の資金力を掛け合わせる等)
- 創業は就業より継続性を重視(初期の資金工面が必要。継続には若者等の意見を取り入れることも必要)
- 新しい社会のニーズに対応した形で高齢者の生きがいを見つけることが創業につながる(例えば、若者が集う場所や教育の選択肢が大都市と比べて少ない。高齢者が自身の知識・経験を活かし、昔でいう「寺子屋」の開設による教育機会の提供も考えられ、このような発想が創業に結びつく)。

## 長野県らしさ

- 直売所(地域のものだけを扱う(低農薬などのこだわり。他地域からの仕入れをしない))
- 長野県＝健康長寿(健康長寿県を売りにした創業)
- 人と人との関係をビジネス化
- 地域での話し合いの場を設けて自分達で地域の良さを発見し、ビジネスに結びつける

## ★上記意見(創業)における最も共感した事柄、意見等

### 相談できる

- 集える場所がまずあって、そこで話ができ、その話をつなげる仕組みが一番大事である。
- 相談できる仲間がいること一番大事である。

### 環境整備(研修等)

- インターンシップ制度も含めて環境づくりが大事である。

### 長野県らしさ

- 創業に関しても長野県らしさが出れば良いと思う。

## ③ 高齢者の社会活動をさらに進めるためには何が必要か？(誰が、何をする)

### 学びの場

- 各人がゼロからチャレンジする。(あまり外に出たがらない人を引っ張りこんで、仲間にする。孤立している人に来てもらう。)
- 多様な趣味の講座等の開設、運営
- 行政、社協はボランティア等社会参加の講習会をする。(ボランティアをしたくても何をしたらいいかわからない。そのきっかけがない。第一歩としてきっかけづくりの為の講習会)
- 県社協も市町村もボランティア養成講座はやっている。(シニア、男性対象のボランティア講習会もある。地域の課題に気づける様な講習会もおこなっている。) その講習会を主催する市町村のコーディネーターのスキルアップも行っている。



## コミュニケーション

- 町内会や集まりの中で、自分の意見やアイデアをもっと自由に話せる雰囲気づくり(アイデアを出してもだめだと言われてしまう。自由に意見を言える雰囲気ではないと社会活動につながらない。まずは雰囲気や場づくりが必要。)
- 高齢者宅への友愛訪問などの支援(高齢者は施設にいても在宅でも話をしたがつている。元気な高齢者が、そうでない高齢者を訪問することで支援につながればいい。)
- 友愛訪問をしているが、若い家族の方がいると入りにくい。高齢者の方となかなかお話しができないことが訪問活動の悩み。
- 長野県健康体操を各地で行う。(信濃の国を県民が歌えるように、長野県の体操のような県民体操をつくり、チャイムが鳴ったらみんな広場に出て行って体操するぐらいでないと、地域のつながりができてこない。)
- 自分の意見を言いやすい場所や雰囲気をつくる。(誰も否定しない雰囲気づくりコミュニケーションの場が必要)
- お邪魔していろいろ話を聞く。(例えば、あなたの半生の本を作りますともちかけ、1年後にまた話を聞きに来ますと言っておくと、それに向けて昔の事を思い出して行動しだすという気がする。こちらから、まず、最初のきっかけづくりをしてあげるといい。)



## 県民の意識啓発

- 現役時代からのボランティアの機運づくり。どんな人でもどんな立場でも参加する楽しさを知る。(女性でも男性でもどんな立場でもボランティアは色々な形で関わられて楽しいもの。若い時代からボランティア体験をすると、高齢になってからもその延長で活動ができる。)
- 高齢者にも活躍してもらわないと社会が成り立たないこと高齢者を含む県民が理解する。(高齢者＝支えられる側という考えは既に破たんしかけているということを分かりやすく伝える。支えられる人は支える側に回り、逆に支えなければいけない人は、年齢に関係なく支えていくことを県民に理解してもらう必要がある。)
- 各家庭に呼び掛ける努力が必要(公民館活動を中心として)(社会活動は、できるだけ多くの人を巻き込む必要がある。隣近所がお互いに誘い合っているような形にすればいい。例えば囲碁将棋、マージャン、ゴルフ、ゲートボールなど何でもいい。そういう意味で公民館に期待したい。)
- 公民館が社会参加を促す活動をする。(公民館はたまり場、集まり場所になる。仕事をリタイヤした人は引きこもらないで是非、公民館活動に参加し、仲間づくりをして地域を活性化してもらいたい。公民館講座は、女性向けに偏る傾向がある。どのようにしたら男性も来ていただけるのか悩みの種である。こんな講座をやってほしいという要望を公民館に出してほしい。)
- 男性の社会参加少ない。どうすればいいか。(公民館の講座は、割と女性が好む講座が多い。また、年に数回開催するので、高齢者が参加するのは大変。もう少し仲よしクラブ的ではなく男性の方が、年1、2回参加できる講座があってもいい。)
- 行政や企業は社会活動を促す啓発をする。
- 既に活動している人に光をあてる。(高齢者の方で、いい活動をしている人は沢山いるので、その活動を素晴らしい活動だと評価して、それぐらいのことならできそうだと知ってもらおう。)
- 県民はずくを出して行事(講演)に参加する。(無関心でいることが多い。何か1つでも自分で変わってもらいたい。)
- 県民は外へ出るときは他の人も誘う。
- 自分から行動することで仲間を誘う。(きっかけは色々あるが、自分で動かないと始まらない。自分から仲間を誘えば結構ついてくる。)
- 自分が自治会活動に積極的に参加するとともに、家族にも参加させる。(一緒に活動をすれば理解も得られる。)
- 体制を社会全体で整えることが必要(趣味を活かした社会貢献活動をしようと思っている人達に情報提供する。現役時代に自治会等の役をしないと、リタイアして地域に帰っても孤立してしまう。)
- 働いている人には働いている人なりの、子育て中の人にはその人なりの、高齢者には高齢者なりの色々な関わり方がある。公民館の生涯教育の講座で学んだことを是非、地域のボランティアセンターや社協に持ち込んで、活用してほしい。
- 65歳以上の健康な高齢者は支える側になりましょうと県レベルでPRする。

## 活躍の場づくり

- 居場所づくり(例えば公民館を1日おきに無料で解放する。そうすると鍵の管理等、人手がいり、お金がかかる。それには区の役員とか色々な方を巻き込んでいけばよいのではないか。来ない人には、サークルを作って民生委員等手わけをして訪問する。取りこぼしがないようにする。障害者の方も、認知症の方も含めて孤立することがないようにする。)P34 一番下
- 第一歩として社会参加の場。対象や活動を限定しない。ゆるい集りの拠点づくり(対象者の年齢、性別は限定しない。何のために来てもいい。緩やかでオープンな集まりの場所があれば、創業などの色々な課題が集まり、グループが自然とできる。)
- 自治体の行事等に積極的に参加しアピールする。例えば私は保育士だったので子育ての相談にのれますよと。(子どもが保育所で急に熱がでた時も一番身近なご近所の助けがあればいい。それには、日頃のコミュニケーションが必要。高齢者のお手伝いができる機関が必要)
- 地区でお祭りを開催(ラジオ体操など音を出すと集まりやすい。何かきっかけづくりができればいい。)
- 団体、組織に縛られることを嫌い役員を受けない。(高齢者の集まりで古い決まりごとをやめないと若い人は入ってこない。)
- 寄合処の提供(廃止支所など)(公民館と同様に物理的に寄合場所を提供できればいい。)

## コーディネート機能

- 高齢者が活躍できる場所、機会に関する情報がまとめられている。(活躍できる場所があり、なおかつ、情報がある程度ないと活動しようと思ってもできない。橋渡しが必要)
- 特技のある人が学校や公民館に自分を売り込む。(地域課題解決のため、地域の人材をコーディネートする仕組みが必要)
- 公民館、シニア大などの生涯学習と社会とのコーディネートが必要(ボラティアセンターなどで)(生涯学習をされた方は、是非ボラティアセンターや社協に来てほしい。社協としても公民館等にアプローチしていく。)
- 高齢者が社会活動をしようと思った時に情報提供やアドバイスをしてくれる人が必要(対面で橋渡しができる人がいれば、より確実に活動したい人と活動する場をつなぐことができる。)
- 退職後は職場で培った能力や趣味を活かしてボランティア活動をしたいと考えているが、どこから手をつけていいか分からない人がいる。
- 地域活性化、振興のためのコーディネート役(色々な能力や経験を持つ高齢者が、地域振興の活性化に寄与できる活躍の場を提供したり、人材バンクなどに登録して、各市町村、県がその人材を活用する。)

- 他地域での活動のデータベース化と情報発信、情報の共有化(他の地域ではこんな事をやっているのだという気付きとチャンスを与える。)
- 地域の援助を必要としている方への関わり(地域のニーズ、要望(草取り、庭木の剪定、農家のお手伝いなど)をどうコーディネートしてつなぐか。)
- 仲間づくり、本人の趣味の力を引き出すチャンス(人と人との関わり、出会いが大事)
- 学校が校内の課題について地域に発信する。(教育分野での社会活動。それぞれの学校のニーズとそれを解決できる地域の人材とのコーディネート機能)
- 高齢者の社会参加を支援する。情報の受発信。コーディネート機能。(何でも相談窓口の設置)

## ネットワーク

- 使いやすいPC、携帯電話の開発、普及
- ネットワークづくり。(地区役員、民生委員、福祉関係者等に医療関係者を加えたネットワーク)
- SNS(フェイスブック等)をやる。
- シニアボランティアのネットワーク化(活動して嬉しいことをつくる。)(お互いに評価し合い、それが社会の役に立っていることが分かるのはとてもうれしい。ネットワークがあって他者の活動状況が分かれば、活動しやすくなる。)
- 高齢者活動を支える組織の横のネットワーク(高齢者の社会活動を支援している組織はいくつかあるが、横のつながりを大きくすれば、さらに大きな仕事ができる。)
- 元気な高齢者が地域の中で介護の担い手になれる仕組み。(例えば介護施設でボランティアとして受け入れる有償ボランティア制度として行政が運営する仕組みなど)(高齢者介護を支援する社会活動は、体を動かすことで自身の介護予防につながる。社会の支え手だと実感が得られるので、キャリアにもつながる。)
- ボランティアのバンク(やりたい人と求めたい人)をつくり、そのマッチングを行うコーディネーターの育成(社協にボランティアコーディネーターがいるが、活動が少し弱いと思う。多様な活動ができるボランティアが必要。災害時だけではなく、普段からすぐに動けるボランティアコーディネーターが必要)
- 高齢者の社会活動に関する機関、団体が地域ごとにまとまっている。(高齢者の社会活動に関わっている機関、団体等はあるが、横の連携、情報共有がないので、地域ごとにネットワークをつくり、その中に高齢者を受け入れる。(遠いネットワークだと形だけのものになってしまう。))
- 多様な関係機関の連携、協働(長寿センター、社協、公民館、老人クラブ、JA、観光、シルバー人材センター、NPO、行政等)

### 若者へのアプローチ

- 自分の経験した仕事や趣味を子どもたちに教える。学校に窓口を設置する。(教えるということが生きがいにもなる。わら細工をやっている高齢者のクラブが学校に行って楽しそうに教えている。そういったことが広まればいい。技術の伝承にもなる。)
- 子どものしつけ、教育支援(教育について経験と知識のある高齢者の力を借りて、子ども達を育成していく。)
- 子どもとの接点を増やす。

### 関係機関への支援、充実

- 公民館の活動の周知にハローワークに協力していただく。(ハローワークにきた方に公民館はこんな事をやっていて、こんな風に利用できるというチラシを渡していただけたらと思う。)
- 長寿社会開発センターの機能充実(意識づくり、人材の育成、情報の受発信)

### その他

- 金銭的な余裕

## ★上記意見(社会活動)における最も共感した事柄、意見等

### コミュニケーション

- 孤独な高齢者が一人でも少なくなるよう、一歩外へ出ていただいて、コミュニケーションをとりやすい環境を設けてほしい。
- 一歩外に出るにも勇気がある。誘いあえるコミュニケーションが必要である。

### 県民への意識啓発

- 支えられる側から支える側への意識改革。その言葉が高齢者の方の誇りになる。
- 高齢者の方は働きたいと思っているが、「そんなに高齢になっても働くのか。」と言われてしまうので、できないではないか。県民の意識もきちんと変えていかなければならない。

- 一人暮らしの方などの今後のことを考えると、社会活動をしていただきたいので県民の意識啓発が大事だと思う。
- 高齢になると何でもやってもらえることが当たり前とってしまうが、その意識改革をしていくようPRするのがまず、第一歩である。
- 高齢者は社会を支えていく主体の一人だという意識をたくさんの方に持ってもらうことが社会参加全体を考える上で重要である。
- 就業、創業、社会活動にしても、高齢者を地域全体が支え、安心して高齢者が暮らせる生活基盤がないと進まないの、そのためにも若者から高齢者を含めて県民の意識啓発が必要である。

### 活躍の場づくり

- 就業、創業、社会活動を合わせて、やはり究極の目的が活躍の場づくりだと思う。長野県はこんなにも活躍できる場があるというイメージを持ってもらうことが一番大事である。

### ネットワーク

- 就業、創業、社会参加は、ネットワーク形成から始まるので、ネットワークが重要である。
- ネットワークを作って横の交流を持つことが大事である。
- 職場の上司や同僚の理解と応援が大事である。

### コーディネート機能

- ニーズに対して最終的にはコーディネートやマッチングをしてあげなければ意味がない。
- 具合的な橋渡しをして、ここに活動の場があり、ここに活動できる人がいるということを地道に繰り返していくことによって、そういう動きが県内全体に広がっていくと思う。
- ネットワークを広げて、それをうまくコーディネートできないとうまくいかないと思う。
- コーディネートを意味するところが、就業、創業、社会活動と3つ全部にあったと思う。そもそも地域発でこれから地域をどうしていくか、これから地域でどう暮らしていくかということを考えていく中で、色々なコーディネートの形があると思った。ボランティアだけではなく、それをみんなで仕事（農業も含めて）にしてしまうことも考えられずし、幅の広いコーディネート力が必要だと痛感した。クリエイティブにコーディネートしていく力がこれから必要である。